

弩真ん中を知る ㊦ 三月十三日（午前中）

児玉雨子

口の中になんか、種みたいなのが残っている。嚙んでみると、口あたりが最悪で青臭い。いろんな面白い夢をみていたのに、目が覚めるとそんなことしか覚えていない。覚えていないっていうか、実際起きたときに奥歯の間とかに苺とかの種のかんじが残っていた。

まだ空は暗かった。携帯の時計を見るとまだ三時半をちよつとすぎているくらい。とてつもなく底抜けに悲しくなるくらい静かだった。誰かと一緒にずつといたあとのひとりは、どんな効果が働いているのかわからないけどいつもさびしい。ずつと誰かと一緒にいないとだめな子は、きつとこんなタバコやお酒や麻薬みたいな、禁断症状を抑えたいから次々に誰かをつかまえて、こんなたったひとりから逃れているのかもしれない。いつも、「別に誰かいるならいるけどいないなら別にいないでいいし」みたいな姿勢でいたから、急にあんなにずつと葉子と一緒にいたから、私もその味占めちゃったんだきつと。やばいやばい。元にもどれ、「ひとりなんて別にこわくないけどお？」な私よ戻ってこい。このままじゃ友達中毒になる。

今日も月の明かりが強かった。ちよつときれいだし、空でもみちやおうかになって思ったら、畳の部屋に私の影がうつるくらい。でも感傷に浸って自分に酔えるほど私は強くなって、すぐ勉強机に座って電気をつけて、デスクライトもちゃんとつけて、一日にやる量を一か月前から決めている英語の文法問題集を開いた。ルーブリーフを一枚出して半分に折ってやる。この流れが全部、勉強を始める前の儀式であって、ごはんを食べる前のいただきますよりも無意識に両手が順を追ってこなしていく。

起きてすぐは、暗記モノよりも計算や問題を解くもの方がいいと聞いてから、私は朝起きてから英語と現代文をやる。日本史は夜寝る前に、問題演習をしながら一緒に解説を読みながら覚えて、それが終わったらベッドの中で英単語を覚えるのが自分で決めたことだし、初めて二か月ぐらいでもう、その全てをやらないと気持ち悪くなってくるようになった。最初は予備校の英単語

のテストのためが、いつのまにか自分を落ち着かせるためのことになっている。まだ高校一年なのにね。どうしよう。昨日たった一日、葉子といつもと違う日を過ごしただけでここまでやられている。

将来を考えることは、まだ知らない自分の可能性をうんたらかんたら、今自分だと思っているものは過去のデータのうんたらかんたら、自分の姿は鏡でしかみれないけれど、鏡に反射して映る自分を見ることは肉眼で自分を見ていることにならないっていうことを述べている論説文を解いたことがあった。

問題を解くっていう上っ面の技術だけじゃなくて、胸を抉られるような内容だった。確かに、確かに！って思いながら解いたから、細かい文句は忘れちゃったけれど大筋がものすごく強烈に燃えるように記憶に残っている。これから先、もし彼氏ができたら。勉強が手につかないとかそうなれた方が、よっぽど楽しい毎日を過ごせるのに。私が野島と、いいや私が野島に振られたのは、そうゆうところだった。目の前にすると何もかもぶつとんで彼でいっぱいになれなかったように見えていたようだった。本当は考えることをやめたら、野島で全て埋め尽くされるような安くて叩けば音の出るような頭かもしれないのに、そうなることから逃げて考えて考えていた。ばかな子って思われないように頑張っていたことが、あんまり嬉しくない、今となったらもう過去そのものを作ってしまった。もしあの時あの頃、いらぬ他人のデータを気にしないでばかになれていたら、あの論説文はきつとよくわからないままだったし、もしかしたらむしろ達観して読み解いていたのかもしれない。

一ページ終わって、トイレにいきこうと思った。喉も乾いているし、さっきから痒かなんかの種が気持ち悪い。椅子から立ち上がるのかなあと思ったら、ゆっくりじっとり、カタカタと机の上のペンが鳴りはじめた。

じっくりじっくり、だんだん強く、横に部屋全部が揺れ始めた。わ、地震だ。そうだ、一昨日あんだけ強く揺れていた。昨日だったまにこんないや

らしい揺れが何回かあった。それなのに、一度寝ちやうともう忘れちやう。なんなの。こわい。この揺れが大きくなって、今度私の家が潰れたらどうしよう。ガラスがはめ込んでいるドアのバリバリ音がここまで聞こえてくる。やばい。これはやばい。おしっこいきたい。やだ！

またいやらしく、揺れは徐々に収まっていった。でもそうみんなを安心させておいて一気にくるんじゃないかって思いで頭がいっぱいになった。

トイレで地震がきたらどうするの？お風呂入ってるときに大きいのがきたら終わりじゃないの。生命的な意味でも社会的な意味でも。裸だし死にやすいじゃん。お風呂だめじゃん。シャワーで必要最低限洗うところだけ洗ってとっとと服着ないと死んじゃうじゃん。死にはしなくても大けがの可能性大じゃん。お風呂って最大に無防備な時じゃん！温泉とかザ・モースト・ウルトラミラクルばかじゃん！延々に繰り返す負の感情のスパイラルを、今ひとりじゃあ葉子みたいにプラスが中和してくれるものも何もなくて、死ぬかもしれないって恐怖がどんどん下から上へとよじ登ってくる。将来を考えるなんて、一秒先も生きてるかかわからないのに、勝手に何十年ぐらいか生きてるのと見積もって計画立ててんのか。決まってるっていつも老後のことはなあなあにして、どこの大学行ってどんな職業について結婚したいかしたくないかで結婚したら子供は何人欲しいな、みたいな。結婚相手いるのかとか妊娠できるのかとかそんなレベルじゃないの。当たり前のようにそこまで生きてる予定は立てるのに、その先はふわっと考えるのをやめちゃうって、そこまでしか生きたくないの？って、考えることは掘り下げはじめると本当に、いつまで経っても断層の色が変わりゆくだけ。地球を掘りつづけるくらい気の遠い作業だね。地球の真ん中にはマグマみたいなドロドロがあるって聞いたことがあるけれど、本当に辿り着いたひとなんているのかなあ。実際にちゃんとある地球でさえも真ん中を見たことないのに、こんな考えを掘ったところで見つかるのだろうか。なのにどうして私は考えるのをやめないんだろう！こ

れは哲学でもなんでもない、ただの卑屈でキモい中二病なんだって言い聞かせないと、ヤマシタトモコさまとか魚喃キリコの漫画の主人公になった気分になって勘違い始まってイタイかんじになる。だからやめよう。

リビングに行き、テレビをつける。朝の全く面白くしようと努力をしない、言い方を変えれば無駄を削いだシンプルなニュース番組の上の画面に、白い字で震度と地域の名前がたくさん上がっている。ニュースの内容も、昨日と同じで倒壊した家や建物、大きすぎてわからないような津波の映像。そして上空から撮影した丸い大きな建物の様子。何も昨日から変わっていない。一日の境目が見当たらない。夜にちゃんとお風呂に入ってから眠っても、変わり映えのない非日常のせいで昼寝をしたような気分だ。

リビングで充電していた 아이폰 の画面ロックを解除すると、いろんな SNS からの通知があった。ひとつひとつ開いても、内容は普通にあの日より前の会話の続きだった。でもその SNS のホーム画面では、みんな人が変わったように「大丈夫ですか」とか「東京は汚染されています。私は明日名古屋に行きます。みんな無事ですね」とか「日本の平和」とか書いてあった。私にはメールで「クッソワロタ」とかいうのに「ラブ・ジャップ」とか書いてる子もいるんだけどジャップって差別語っていうか：その：あんまりよくない言葉ですよね…あれ：もしかして私の知識は古いのかな。ジャップはオシヤレにジャパンを省略した形として通用しているものなのかなあ。みんななんだか、別のひとみたい。違和感と苛立ちで肌が痛い。

メディアに騙されないで！テレビが放送していない現実！みたいな記事までツイートしたりシェアしたり、一応読んでみるけれど、どれが本当なのかわからない。あんまりに情報が多くて、それを見分けられるほど、私は勉強はできても頭は良くない。せっかく学校で情報リテラシーの授業で情報を鵜呑みにしないってことを教え込まれても、どれをも鵜呑みにしちゃうしどれをも切り棄てちゃっている。

ただ分かったのは、みんなそう言ってる自分に酔ってるだけだってことと、私は何にも世界を変えることも真相に近づけるような主人公でもない、漫画の枠のすみっこにいるモブだったこと。だって、スケールが大きすぎるし、私は完璧な当事者になりたくてもなれないんだもん。テレビの中で泣いている人にも、海外や地方でえらいこっちゃうって言ってる人にもなれないんだもん。

ネットでは外には有毒なガスとか、漏れ出した放射能だとかが漂っているらしい。けれど私はソファアに脱ぎ置いたままだったコートを着て、ベランダに出て見た。月は相変わらず強く穏やかにエロく輝いていた。夜の時間は長いけれど必ず朝がやってきてしまう。早くこんな状態、混乱してくるから終わってほしいけれど、でもこんないつもと違う日を引き延ばしてほしいかなって思った。みんなの目立ちたい、いい事言ってるワタシを見て、若者だけと言ってることは正論だろうみたいなきもちだけは、まだ許せないままだったけれど。結局は自分の言葉で誰かを惹きつけただけに、こんな出来事を利用してんなよって、私にもあったんだってくらい忘れてしまっていた正義感っぽいものが少しだけ、ほんのちよっとだけげっぷをした。

(続)